

を出して居ます。麥は北支に次いで全支の五割五分、棉花は同じく五割を産出します。

鑛業に於ては鐵鑛は全支推定埋藏量の三割五分を占め、産額は殆ど中支から出るものであります。

石炭は北支に劣りますが、タングステン是世界第一の産出國で世界の三分の一を出すと共にアンチモニーも産額世界一で殆ど全部を湖南省から産してゐます。

中支で重要視出来る工業に上海を中心とする紡績業があります。事變前三百萬錘を持ち世界でも有数の紡績地で武漢が之れに次ぎます。尙支那事變で紡績業の受けた損害は八億と言はれますがその後着々復舊して居ります。

南支

氣候が熱帯及び亞熱帯に屬する關係上、鑛業は埋藏量が金、銀、銅、鐵、錫、鉛、マンガ、ンチモニー、石灰石、タングステン、鹽等豊富に藏されてゐますが未だ開發不充分で今後の期待は大きいものがあります。

農業は米を主とし養蠶も行はれてゐます。

その中心地廣東は古來孫文、汪精衛、蔣介石、胡漢民等の一流政治家を産み近代支那の發祥地とも言へます。更に又南進基地として共榮圈經濟に持つ重要性は偉大なものがありました。更に同様の意味に於ての海南島はその經濟的の價值から言つても見逃す譯には行きません。海南島から産する鐵及銅はその素質が極めて優良で、この外調査未開發のものは錫、金、タングステン、ボーキサイト等であります。

第二課 滿洲國

建國十周年を迎へ名實共に友邦として我國戰時經濟に寄與する所尠くない滿洲國の産業は開發五ヶ年計畫として出發しましたが、昭和十六年がその最終年度に當り、更に第二次産業五ヶ年計畫の輝かしい出發を初めました。

この最初の五ヶ年計畫に依つて滿洲産業の増産躍進振りは異常のものがあり、殊に鐵、石炭に就いて申しますと、鉄鐵の生産額は昭和十二年から較べると約二倍で、我國への供給は約八割を増加し、石炭又五割方の増産であります。

其他鉛、亜鉛は自給の域に達し、アルミニウムも第三期増産計畫中であり、今後調査開發される資源は、鴨綠江、松花江、鏡泊湖の水力發電工事の完成と相俟つて工業力の充實に伴ひ顯著なものがあると思はれます。

尙滿洲に於ける移民政策二十ヶ年百萬戸入植計畫は、第一期五ヶ年計畫を完了し、東亞食糧問題の解決と延いては我國轉失業者の對策に於て日滿連繫の光輝ある成果を收めて居ります。

第三課 蒙 疆

防共、民族協和、民生向上を三大原則とし、共榮圈の一翼を作る蒙疆はその地勢から言つても赤色ルート^{赤色ルート}の嚴然たる防壁として國防上の重大價值があります。

先に蒙古聯合自治政府が成立するや七百萬民衆は四色七條旗を翻して、成吉思汗^{ちんぎすかん}以來の名譽ある東洋道義の昂揚の爲に敢然と私共と歩調を合せて起ち上つたのであります。

地勢上此國の産業は各種農、畜、鑛産資源に富みますが、交通の不備と資本の投下不足の爲今迄開發の緒に就けなかつたもので、自治政府の指導と我國の助成に依つてその開發は一段の

拍車^{パチマ}が加へられたと申せます。

農業は同地の雨量が極めて少い爲乾地農業を特色とし、産物の主なるものは小麥、粟、高粱等で就中小麥は北支へ糧食の補給に依り北支の綿花を高度に高める必要があります。更に又未開墾地千二百萬町歩の農耕適地が將來の日本人移民を待つてゐますから、匪賊の勢も次段に弱まり治安も恢復して來た今日その將來性は無視出來ません。

畜産は鐵、石炭と共に内蒙の重要資源の一つで、極めて原始的な方法に依り乍ら牧草豊かな天然の大牧場は、羊毛の産出を第一と致します。

鑛業は石炭、鐵等で近來機械及人員の整備に依つてその産出量は日本に於ける不足額を補つて、日本工業の飛躍的發展に寄與しやうとの意氣込であります。其他滿洲へ鹽を年約二十五萬ピクル輸出してゐます。

第七章 南方經濟の實力を握る華僑

華僑といふのは南方諸地方へ出稼ぎに出て居る支那商人の謂であります、その勢は恐るべ

きものがあり、年々本國へ送金する金額は尨大な金額に上つて居りまして、經濟的意味から極めて重要視せねばならないのです。

その種類は勿論ピンからキリ迄あつて僅かな口錢で日傭ヒヤカに働く者から數萬の富を有してその國の經濟に内面からヒシ／＼と壓迫を加へる大實業家がありますが、南方諸共榮國の從來の經濟の半ば近くはこの華僑の手を経るものが多く彼等に對する對處策は、今後の經濟建設に當つて一つの重大な宿題であります。

今この華僑の南方分布の模様を昭和十六年を基準にして調べて見ますと次の通りです。

即ち佛印には四十萬、泰に三百萬、馬來には十七萬、英領ボルネオに八萬八千、蘭印に百二十三萬、比島に十二萬、チモールに三千人で合計六百五十四萬人の多きを數へ、全世界へ分布する華僑の約八割五分迄は南方へ進出してゐる事が解ります。

その進出數に於ては南方中泰が一番餘計ですが、その實力から言つて馬來の華僑は政治的にも經濟的にも穩然たる勢力を持つて居ります。これは丁度歐洲に於けるユダヤ人が金力に依つてその恐るべき野望を逞しくして居ると同一歩調でかれ等の動向如何は今後の我經濟方策に重

大な影響があります。

彼の重慶のデマ宣傳に躍つた華僑のある者は年々巨大な資金を重慶の奥地へ送つてその抗戰力を培つたものでしたが、皇軍の偉大な戰果に依り利に巧さとい彼等として最近は親日へ轉向した者が多く、又重慶の惡質デマも次第にその真相が暴露されて、我方への送金の協力を爲すものが出て參りました。

今南方各地に分けて華僑の勢力を覗つて見ませう。

佛印に於ては他の地域程勢力は強くありませんが、精米工業で相當の地盤を築いてゐます。

泰は支那事變以來タイ政府の彈壓がりましたが（「華僑は東洋のユダヤ人で泰の痛なり」と迄言つて居る）依然極めてその實力は強大で、商人は殆ど華僑系統であり、精米も全く華僑の手の内に在り、ゴム栽培、錫鑛山への投資でも華僑のものが尨くありません。

蘭印に於ける華僑は特に經濟的に大きな役割を占め砂糖でもゴムでもその三割近くは華僑の手を経るもので、農林産業にも相當關係して居ります。

比島では卸商の八割は華僑ですが、國民經濟運動と華僑排斥運動とに依つて多少は衰へたと

言はれて居ります。

昭南島の華僑は全くその勢力壓倒的で、全人口の八割迄が華僑を以て占めて居り、一日十錢の苦力から胡文虎の様な數億の富を擁して本職は藥商ですがゴム、錫事業へ投資して居る者、地主、家主、商業、漁業何れの方面として華僑の勢力のない所はない位です。

それなら大東亞戰遂行中の現在に於て彼等は如何なる動きを示してゐるかと思ひますと、泰の華僑では一時重慶へ一月に三百五十萬元も送金した事がある位でしたが、バンコックの昭和十六年の華僑大會では、重慶の工作に依つて莫大な損害を蒙つた事を認め蔣介石へ絶縁狀をたたきつけました。

佛印の華僑は從來支那領事館が抗日策動の本部の觀がある位の援蔣行爲の策源の中心地でしたが、我軍の佛印進駐後ドクー總督の反日集會の禁止に伴ひ、次第に親日色彩が濃くなつて皇軍に協力して佛印米の集荷配分に當つて居ります。

蘭印では華僑を中心とした一般外國人の渡航を禁止して以來、同地の華僑は移住の華僑の子孫が多く従つて祖國愛は薄らいでゐて心配は少ないと思はれます。

比島では一時大分華僑の反日行動がありました、新國民政府の誕生以來和平氣分が濃厚であります。

尙マニラ、バタビア、香港の華僑が一丸となつて全華僑の中心親睦機關として「壽賑會」の本部を昭南市に設け重慶へ年々數億の送金を送つてゐたのもその後の内部對立やら新政府の躍進で座折のやむなきに至りました。

又上海に本據を置く南洋華僑は「南洋華僑振興會上海總部」を結成して、日本及國民政府の援助の下に東亞共榮圈内の新經濟機構を打ち樹て、物資の圓滑な交流を計り、文化の推進となる施設を作つて我國に協力しやうとしてゐます。

一體華僑がこの様に南方共榮圏にかくも繁榮して居る理由は何處にあるのでせうか。

私共は彼等に對してよい對處策を構する前に此の事實を知らねばなりません。この理由とする所は幾多ありませうが、一言にして言へばその性格に在ると言へませう。彼等は假令どんな熱帶の暑熱にも乾濕の變化にも痛痒を感じません。忍耐力、勤勉の點に於ては他の何人も追從を許しません。又彼等は團結力が強くて商才に長じてゐるのでから、天惠の資源に浴し生來

怠惰な南方民族が之れと太刀打の出来ない事は當然です。而も彼等には國家觀念が薄く政治的興味が少ない事は今日の隆盛を來たした一原因とも言へませう。

我國の移民が從來各地で隆々辛苦の末棄て去られるのは算盤そろばんよりも國家を愛する爲です。國家觀念の強い人種は何處の國でも薄氣味が悪くて如何によく働かうとも最後は押しつけられる運命になるのです。

この點華僑の強みは眼中國家なく計數あるのみだからせう。

扱それなら今後の對華僑政策はどうしたものでせうか。大東亞民族の結合上華僑の動きは絶對無視は出來ません。支那事變に際して我國の對華僑政策はその時委せと言はれても仕方はありませんでした。併し南方共榮圈の經濟建設に當つては餘談を許しません。何れにせよ華僑との提携はそれこそ好む好まぬの問題を超越した必然の事柄です。

而も彼等は實力を以て指導育成するといふ手段には向きません。何處迄も實利主義に依て誘ふ以外には手はないのです。

彼等が今日皇軍と協力して共榮圈の經濟部門を受持つたからと言つて、それは皇軍の恩威並び行ふ態度に感激した譯でもなく、親日に轉向し國民政府に忠誠を誓つたのでもありません。彼等はその外に生る道がないからそうした迄です。

寧ろかう言ふ實利から出る華僑を積極的に經濟建設に参加させる事は樂なのかも知れませんが。但し華僑對策はそれなら不統一でよいといふ事にはなりません。それが爲には各地に散在する華僑を各地の特殊性を考へて中央で一本に統制して行く事が必要です。命令や指導が何本も出て矛盾撞着がその中に在つては如何にもなりません。

要するに利にさとい彼等に充分の利益を與へ、支那の和平陣營への参加と大東亞共榮圈の建設との眞意味を理解させるべく善導して寛嚴宜しきを得る所に於て、彼等の眞骨頂を發揮させる事が出来るものであります。

第八章 敵陣營の檢討

四年有餘の間我國は重慶と戦つて参りました。併し正直のところ我國民はこの頑敵に連勝し

て参りましたが一向何處か據り所のない不安にかり立てられて居ました。

その間に國內の新體制は漸次その形を成就し經濟整備も戰時下に於て比較的順調に捗どつて行きましたし、他方獨、伊樞軸との握手は益々固まり新國民政府の治安も次第に治まつて行き北方滿洲國の躍進も著しいものがあつたのですが、矢張り何處かに國民の希望を揉み消す障害があつたのでした。

といふのは、重慶の裏にかくれて之れを操る米英の援蔣行爲があつて、唯、間接に援蔣物資や借款の程度に止らず武力的援助に迄積極化して和蘭と共に馬蹄型の對日壓迫陣を作つて盛んに我に向つて挑戰的に出て來たのですから我國民も安閑とはして居られなかつた譯です。

重慶へ底迄爆撃を繰返した所で肝心の敵は海の彼方に在るのですからどうなるものでもありません。

果然十二月の八日未明から我國民は溜飲を下げる事が出來たのです。目指す敵國をはつきりと目標として戦ひ抜く事が出來たのです。こうなれば重慶等物の數ではありません。米英を伏滅する事が出來ればその手先に過ぎない重慶がどんなに足掻いたところで螻蛄の斧と言へませ

う。

大東亞戰爭の意義もこの點に於て判然と致します。新東亞の共榮の爲に、東洋人が東洋保持の爲に、日本が眞の東洋平和の爲に米英を相手にして起つたのですから、國民としてもどんな苦しい生活にでも甘んじて戦ひ抜く氣持が生じる譯です。勿論相手は世界最強、最富を誇つた一等國ですからそう簡單には参りますまいが、相手にとつて少しも不足のないやり効ひのある一戰です、我等は何とて屈しませうか。

勿論南方諸地域の戦果に醉ふ事は出來ません。今迄の相手は本當の米英ではなく單なる植民地編成軍の集團だつたに過ぎません。緒戦ハワイの大勝も敵から言はせれば不意を衝いたからだといふかも知れません。

併し英東洋艦隊の全滅と香港及新嘉坡次いでコレヒドール島の陥落は餘りにも彼等の醜體をさらけ出した結果なりました。併しこれでも我々は米英に勝つたとは申しません。

大戰の要は經濟戰に於ける確勝を握る以外に在りません。

私は今迄數章に分つて私共の經濟の實體を皆様に御紹介致しましたが、最後に敵國國防經濟

の裸の姿を一瞥する必要があります。

古來戰に勝つ奥義は敵を識るに在りとなされて居る所を實行しようと思ふのです。

第一課 米國國防の現状

概観して米英の強味はその豊富な物資と金力に物を言はせる尨大な國防計畫に在ります。彼等は所謂「民主主義の兵器廠」たらしめやうと夜に日に次いで兵器の製造に大童となつてゐる事であろう。その戦時豫算も殆ど天文学の様な莫大な金額が計上され飛行機、艦船に第一目標を置いて居ります。大東亞戦迄の状態に依ればその計畫も豫定通り進まず大分批難を受けてゐましたが、何れも自國が戦争の渦中に巻き込まれない以前の事ですから、今日に於てはその當時の儘とは思はれませんが軍需原料品の供給は充分とは思はれません。

アルミニウムは自國の生産高に、屑物及びカナダからの輸入で相當持ちこたへませうし、マグネシウムは四億ポンドの目標に達しさうとの事ですが、問題は銅で、増産奨励金や各種の對策に依つて増産はするとしても本年度の銅の供給不足は約五十萬トンと見られこれを古銅再

生とカナダ、ローデシヤ、白領マンゴからの輸入及び國內在荷の喰減らしに依ると見られてゐます。錫は南方共榮圈の供給が杜絶して青呼吸の所です。米國は一昨年金屬貯藏會社を作つて買付を行つて居り又ボリヴィア政府と協定を結んでこゝから買付を行ふ計畫でしたが豫定通り行かず現在のストックは四、五ヶ月位の消費量と見られます。テキサスには精鍊の爲に貯蓄された少量の鑛石ストックがあり、又民間産業の手中にも凡そ年推定供給高に相當する量が在ると信じられます。又錫工場は現在貯藏中のボリヴィア錫を以て生産を固めてゐます。マンガンは米國內の自給率は極めて微々たるもので消費の僅か四分に過ぎず現在のストックは約一ケ年乃至十五ヶ月位と見られキューバの豫備資源を待つばかりです。クロームは自國の生産は殆ど問題にならず比島からの供給が絶えて相當打撃でせうがタングステンは充分の補充が在ると思はれます。

又共榮圈にのみ頼つたゴム停止に對しては、現在手持ストックの量は最大限一ケ年と見られ自動車タイヤ、チューブの販賣割當制を實施しましたが、軍需の増大は必至で結局極度の消費節減を行つても一年より以上とは見られません。これに對し人造ゴムの増産に狂奔して居る有

様で生産限度を従來の四十萬トンから一躍七十萬トンに擴大してゐますが、他方南方諸地方に投資を盛にしてゴム供給難を補はうとしてゐます。併し茲に難問となつたのは南米の産業家達が米國の人造ゴムの生産と日本占領地の天然ゴムの安價な供給が將來必ずあるものとの見越の下に大袈裟な米國からの投資を拒否してゐる事實であります。

その外南米との物資購入契約の主な品物を挙げますと、羊毛五百四十萬封度その代價二百五十萬弗、キューバ糖の購入（數量の發表なし）皮革類購入（主としてアルゼンチンより）代金三千四百二十萬弗、馬毛購入八百萬弗、メキシコからは鑛石、粗鑛、軍需纖維の同國過剰品全部を輸入する事になつてゐます。

中米でマニラの生産を助成する爲百五十萬の豫算を留保する等専ら中・南米へ物資の補給を求めて躍起となつて居ります。

ブラジルからのゴム、油脂の買付を目的とする米伯協定は既に成立致しました。

従來米國の決戰體制下に於ける弱點の第一は確固たる戦時の經濟體制がない事とされてゐま

した。所謂國民の輿論の極めて強い自由主義の國はこんな場合痛し痒しといった所です。併し大戰に参加した限りそんな呑氣な事は考へられません。生産管理局、物價管理局、資財優先割當局、民間防衛局、經濟國防局、石油調整局等が新たに役立されて統制經濟はいやでも強行されて行くのみです。即ち戦時産業總動員に依つて産業界は急激な大變貌を遂げやうとしてゐます。この結果凡ゆる生産活動を何かの形式で政府の統制下に置き輸出入にも嚴重な指導を置かれ、更にこゝ數ヶ月中には大部分の商品の販賣及價格に統制法を実施する筈です。現在政府の統制する最も高度のものは 一、自動車生産の停止 二、タイヤ消費の割當 三、民間ゴムの使用制限から禁止へ 四、電氣器具の制限 五、明年四月迄にニツケル、クローム使用器具及電熱線の禁止 六、錫の使用制限 七、綿製品の軍需轉換 八、羊毛民需の五割削減 九、ガソリン割當は本年迄に實施等でこの爲中小企業の犠牲も不可避とされてゐます。

米國名物の勞働爭議は戦時下にあつてもその形式を變へて續發して居ります。戦争下の本年二月は一月よりも増加してゐるといふ日本人には到底考へられない珍現象を呈し、遂に戦時生産局長官が三月二日のラヂオ放送で「本年中に六萬の飛行機、四萬五千のタンク、二萬の高射

砲、八百萬トンの商船建造計畫だが、本年も既に二ヶ月経過した。企業者、労働者協力して生産計畫遂行に努力されたい」と全國労働者に向つて罷業停止の哀願をする始末です。この様に罷業が米國の國防計畫をどの位阻害するかを、宣傳して輿論に依る罷業の壓迫をする一方、強制調停に依つて強壓に罷業抑壓を行ひ國家權力を行使して尙止まぬ場合は工場を接收する最後手段を持つて居ります。その彈壓政策の一つの現れとしてトレード・ベオリア・アンド・ウエスターン鐵道會社が政府に接收されました。ですから罷業に依る生産の打撃は日本の樂觀出来るところではありませんが、米國生産業の痛である事だけは信じられます。

更にその一面米國の生産機構に缺點があつて軍需武器の生産が遅れた事も見逃せません、所謂輕飛行機や輕戰車の製造は世界一かも知れませんが、重軍器の製作には何處か不足がある様です。

次にゴムと錫が供給路を閉されて困難になつた事は解りますが、米國が石油難に陥つた事は面白い現象です。即ち三月に入つて大西洋岸の十九州に於けるガソリンスタンドに對する配給量を従來の八割に減少する命令が國防石油調整官から發せられました。

これは樞軸國の潜水艦による油槽船の撃沈による不足と油槽船の大半が太平洋岸に廻つて必死の石油輸送に従事してゐる事實を物語るもので、現在では油槽列車が全能力を擧げて西部諸地方への急行に従事してゐます。この爲結局はお流れとなりましたが西部から東部へ通じる送油管の建設案さへ出て來た位です。

打ち續く敗戦に焦燥に驅り立てられ軍需増産に血眼の米國は新に陸海軍用生産關係工場に對して戰時労働法を成立し、労働時間の制限を一時停止し且軍需生産による利潤を最高六分に制限する事になりました。これは米國としては空前の強壓的な立法で、其他民間工場に於ても從來の六時間労働制から八時間制の採用を行ふ所も出て參りました。

其他國內社會産業大動員計畫の提案に依りますと、總力戰遂行の爲男女市民を總動員し家内労働の制限撤廃を行ひ、又各種生産施設を動員して大統領に絶對權を握らせ以て戰爭完遂の爲に進まうとして居ります。更に又民間資本をより多く戰時生産に振り向ける目的として戰時生産に従事する中小工業に對し金融の保護又は貸付の權限を大統領に附與する法令も實施されるに至りました。

一方商船建造計畫は更に擴張せられ一千萬トンから一千五百萬トンに改訂されました。

更に米國の一方の悩みはその悪性インフレにあります。軍事豫算總額は七百七十億弗、即ち前年度の一舉三倍の膨大な豫算でありまして、赤字は三百五十億弗、國民所得の五倍にも達する戦費を賄ふには物價高が顯著なものがあります。而もこの支辨に當てる公債は一九四三年六月末に既に一千百億弗で、流石金持の米人も一驚する程です。政府はこの對策として、物價統制法の樹立、國民貯蓄の獎勵等に活動を續けて居りますが、民衆生活の不安は深刻を増し、有名なウールワース連鎖店チェーンストアを初め百貨店の賣上は昨年の賣上に較べて半減に近いものがあります。

政府も亦老大な豫算を賄ふ爲從來の大資本家課税法ばかりもやつて居られず一般國民に對する徹底的な増稅案も決定され様としてゐます。

政府の頭痛の種に又農産物價の低落があります。どこの國でも戦争になると食糧に不足してその價格が上るのが普通ですが米國の小麥、玉蜀黍、裸麥は戦争の爲有り餘つて何れも暴落してゐます。同じ悩みで南米では餘剩穀物の焼却さへ行はれてゐます。之等過剩農作物對策も重

大問題の一であります。

斯くの如く「持てる國」と持てはやされた米國も今は私共と同様な條件の元に置かれ、而も戦争の敗報に焦り立つて居る有様は、戦前の豪語に比べて笑止といはねばなりません。我れの弱る所敵も亦弱るといふ戦法の奥義が米國にも當てはまるのです。

第二課 英國戦時經濟の悩み

新嘉坡、ジャバ、ラングーンの相次ぐ陥落と印度洋にも爆發の點火が近付いて居る今日英國戦時經濟の供給路の内東洋方面は全く中絶するに至りました。一面大西洋岸に於ては獨、伊潜水艦の活躍は北南米よりの物資供給路を絶たれ自給自足の出來ない英帝國は茲に全く崩壊の一歩手前と言つても差支へはありません。

從來英國の經濟の強味としたのは物資の豊富で多種多様に亘つて居た事ですが、何分これは自國から産出した物資を言ふのでなく、何れも海外に在る自治領なり植民地との安全な交通路が確保されて初めて言へる言葉なのです。その昔世界を圍む七つの洋洋にユニオンジャクの旗を

なびかせて日没する處のない國と豪語した大英帝國も四面楚歌の今日、世界の屬領は凡て米國の權勢に媚り、武力を米國に頼らねばならなくなり、桐一葉散るの悲劇を味はつて居る事である。

今英國の自給出来る資源と言つては石炭だけに過ぎませんので、先づ被服原料から見ますと棉花は自給率皆無で印度、米國、埃及、ビルマに依存してゐました。印度への依存率はその内一割四分でしたが印度の政治的本國離反はこの輸入を自由には得られなくして居ます。次に黄麻も輸入の全部を印度其他の大東亞共榮圈に頼つてゐたところです。羊毛は自給率僅か一割一分で殘餘は共榮圈の濠洲を筆頭に、新西蘭、ビルマ及び南米のアルゼンチン、ウルグワイ、南阿等に求めてゐたので、この内共榮圈からの供給は實に六割一分五厘の過半數を占めてゐます。先に對獨宣戰後は濠洲及び新西蘭に羊毛買上徵發制を施して聯合國への羊毛の確保と敵國への流入を圖りましたが、大東亞戰の進捗はこの入手をも困難に導く事になりました。

元々英國は戰前からその工業力を誇つたものですが、併しその工業原料とて何れも植民地からこれを補ふ以外に路はなく、その自給可能であつた石炭に於てさへ戰前は免も角最近の需要

の激増の下には不足を告げるに至つたと稱せられる位です。而も之等工業資源の殆ど總ては東亞の天地に求めるものが多く共榮圈確立の曉に於ては到底満足なる工業能力の遂行は不可能と見られて居ります。

即ちゴム、錫は馬來を主とし、石油又英領ボルネオ、蘭印、イラン、イラクに求め、鐵鋼は自給の外に米國及その一部を濠洲へ、ボーキサイト又馬來、印度、濠洲へ、クロームはその一部を印度、濠洲、新西蘭に仰いで居たのです。この外木材と鑛産物の一部を加奈陀から輸入して居りますが東亞の天地を失つた英國の工業力は現在多少の貯藏ストックに依るものとしても百年の計畫は夢にも樹てられるとは申されません。

併し他のどれよりも英國を惱す種は食糧供給の杜絶であります。元來工業立國を以て立つ國柄なのでからその耕地面積の狭小な事と全人口に對す農民の數の少い事は戰時下輸入物資の困難な今日は何といつても英國の死命を制すると稱せませう。

今食糧品中自給の出来るものと言へば牛乳、馬鈴薯等で次いで多少の我慢に依つて持ちこたへられるものは魚類、鶏卵肉類なのですが、之等は日本人の目から見れば立派な食料品と言へ

ませうが、彼等肉食を平常食とする國民のよく耐えられる所ではありません。而も近頃英國の食糧政策からしてこれらの自給率さへ減少の傾向があるのです。

それで蓄産物は主として濠洲、新西蘭、南米から、小麦はカナダ、南米から、農産物は南阿から輸入を仰いでゐた有様です。今最近の英食糧物資の輸入額をその總輸入額から見ますと四割近くであります。開戦と同時に歐洲市場と東洋市場からの供給難に加へて、新に求め様とする米洲や英植民地は何れも輸送距離が非常に長くその間に於ての敵からの攻撃の危険に曝される事は勿論覺悟せねばなりませんし、殊に戦争状態下に於ては食糧よりも先づ軍需物資を優先的に輸入せねばならぬといふ破目に陥つた譯です。更に食糧の不足に拍車を加へて配給の不圓滑は物の腐敗と盜難を増加せしめ闇取引の横行を加へて居ります。

この爲國內に於ては日常生活を最低限度に引下げて、牛乳、肉、ベーコン、砂糖、茶、バター、人造バター、ジャム、衣服類、石鹼、石油等は既に切符制となり牛乳等は普段の半分しか配給出来ない有様で、他の物資とて今申した通り非常に手持薄（たか）となつた爲大部分の人は紙、シガレット等を買ふ事も出来ず、ガス、石炭、電氣は切符制には未だありませんがこれとて心細

いものです又紙の不足の爲浪費者は嚴罰に處せられ新聞も回覽制を實行されて居ります。

この様に海外に依存する度の高い英國にとつてその船舶の輸送能力は生命を決する重大問題なのです。而も四面海を圍らす英國にとつて鐵道は全くその意味がないのであります。今戦前の保有してゐた船舶保有量を第三國の備船をもくろめて二千八百萬トンと見ますと、獨逸が開戦後少くとも七百萬トン近くを撃沈し而も月に數十萬トンを撃ち沈めて居る事實と新に日本の脅威が加はつたのでその商船建造能力を加算しても、現在より減少するからとて増加するとは考へられません。

而も歐洲航路と地中海經由の東洋航路を喪失して次に待ち受ける市場は何れも航續距離が從來の四、五倍には達するものである事を考へる時少くとも千萬トンの保有量とこれに伴ふ燃料を必要とする英國の前途は全く暗澹といふより外はありません。

更に英國の最大弱點といはねばならないのは本國が歐洲に接近して居る爲獨逸の空襲に置かれて居る事です。獨逸空軍の威力は月の進むと共に英國の生産設備を破壊し、その原動力を全滅し盡さうとしてゐます。

之れに伴つて各層の労働力の不足は工業生産力の低下を來す恐れが多分にあるので、その具體的現れが兵士としての植民地兵使用や女子の強制徴用となつて示されるのです。

尙茲に見逃す事の出来ない事實は戦費の調達難とこれに附隨してインフレ増加の危険であります。今日英國は一日數億圓の戦費を費消して居る譯で、従つて軍事豫算の膨脹は恐るべき數字を示し、勢ひこの調達財源としては増税と公債に依らねばなりません。公債の現在高は百億磅以上で今後も増加の一路を辿ると察せられます。

一方増税は各國に比類を見ない高率のもので所得の五割に達し、超過利得税の様なものも十割の税金で、購買税は平均して三割五分といった様なものです。これとて赤字には全く焼石に水の觀があります。一方海外の資産處分は殆ど完了して居るので、これに頼る事は絶望といつた窮乏の實状は慘憺たるものがあります。

英國の生産力を困難にする根本理由に労働力の不足の外更に他に一大原因があります。それは労働賃銀が高い事なのです。元來英國は労働組合や労働黨の發達した國ですから労働賃を統制する事は簡單には行きません。政府はこの爲労働賃の強壓統制には迂濶には手が出せず全國仲裁

裁判所に依つて消極的に罷業を防止して居りますが、獨逸との戦争遂行中の昭和十六年一月から三月迄の争議二五六件と言ふだけでもその實情を察知する事が出来ませう。

獨り騰貴したのは労働賃のみに止りません。對獨開戦後二十ヶ月間の國民生活物資である食糧の騰貴は六割、被服類は七割二分、工業原料及び製品五割四分といふ暴騰率を見ても判然と致しませう。

經濟的に見てこの様に破局に在る英國にとつて各屬領の獨立機運が益々きざされて來たのは泣面に蜂とでも言ひませうか。而も唯一無二の東洋資源地は凡て日本の占領する所となり、濠洲の様な國も英との連繫を打ち切つて米へ依存した位です。米國の英國援助も米國それ自體の國防に急なる今日となつては最早絶望であります。

自ら招いた罪とは言ひながら英國に於ける今日の窮境は最早救ふべき手がないといつても過言ではありません。

第三課 天命茲に極る重慶

重慶が徹底抗戦を豪語して反樞軸國家群の一翼として、日本に反抗して來たのも實は米英の後援といふ氣強さがあつたればこそで、虎の威を藉りた重慶も儂ない夢を破られた今日寧ろ潔く東洋平和の爲に膝を屈すべきでせう。

憎みても餘りある重慶に對してすら我國は機會ある度毎に共榮圈參加の慈悲を示して來て居りますが蔣外一部頑迷な指導者は尙且つ印度に於て策動する等眞に東洋人の仇とでも言へませうか。勿論彼等の一黨は米英に莫大な資産を藏して最後の切札は遁走に在りませうが、それにして彼の支配下に在る無數の民の苦しみを何と見ませうか。思つて茲に參ります時私共は天人共に之れを許す事の出來ない痛憤を感じざるを得ません。

次に斷末魔にあへぐ重慶の現況を調べて見ませう。

米英と重慶の合作據點であつた香港の陥落は重慶崩壞の第一歩と稱せませう。茲に本店のあ

つた香港上海銀行の喪失はこゝを總本山とした法幣（重慶發行の通貨）の活動を一掃され、更に次いで皇軍の手に歸した新嘉坡と共に重慶抗戰財源であつた南洋華僑の送金を切斷して了つた事は抗戰經濟への一大打撃に違ひありません。

又抗戰の支柱とした米英への借款の奥の手もビルマ・ルートを失つた今日、どんなに聲を大きくして叫ぼうとて空手形に過ぎません。桐油、錫、タングステンを見返りとしての武器の輸送も建設工作、生活必需品を送るに手のない約手は拂ふに拂へない道理です。

之れに加へて國共分裂の危機は内部崩壞の危機を示して居ります。國民黨一派が米英をしてその主力を東亞に向けよと主張するのに反して、共產黨はソ聯との關係から米英は打倒獨逸を目指して主力を歐洲に向けよと要求するのは國共對立の主眼點なのです。

中支の第一線でも共產系の新四軍と國民系の中國義勇軍は屢々衝突をしてゐます。重慶要人の中には對日和平論と抗日派とが抗争を續け出しました。

更に物資不足から來る物價騰貴は國民生活を益々ドン底へと叩き落し、財政は三十億元の強

制救國公債及び徹底的増税に依つて國民（過半数は農民）の搾取を強要してゐます。（從來中國の税源は關稅、鹽稅、統稅でしたがその八割を占める沿岸諸都市は新國民政府の手に占められて居る現状です）

重慶の財政の破綻を一層強めるものに新政府の經濟工作の進捗と就中、中央儲備銀行の設立に依る安定通貨の供給があります。

これは新國民政府の中央銀行として誕生したものでその信用の増大と共に新興支那の基礎は益々確保されつゝあります。

奥地支那

最後に重慶政府を中心として約一億の人口を有する奥地支那經濟の解説を致します。これは蔣が抗戰を續けると否とに拘らず總て共榮圈經濟の一環を爲すべき性質にあるものですから、私共の見逃す譯に行かないものでせう。

茲に言ふ奥地支那とは、所謂西南、西北の十省を指すものでして、この内工業の發達して居るのは湖南、四川、廣西の三省で紡績工業が第一ですが、全支の生産額から言へば三分見當に

しかつきません。其他マツチ、酒精を主とする極めて低級な化學工業があります。

重慶の工業は製絲でこの外染織、製革、硝子、燐寸、麵粉、石鹼の小規模な工場がありますが、爆撃に痛打された今日の^{ホトケ}悒は想像するに餘りありません。

食糧は米、雜穀で過剩の状態にありますが小麥は不足してゐます、四川省、湖南西部は有名な穀倉で自給には充分差支へありません。

鑛業に就いて見ると鐵の埋藏は支那全體の三割三分で年産五萬トン餘と見られ、原始的の土法鉄鐵といはれますが重慶及近郊の特設近代的製鐵工場は千以上あると言はれます。併し何れも埋藏量の豊富にも拘らず技術の低級は天與の資源を持て餘す形です。又機械金屬工業も重慶附近に移轉又は特設されたものが相當あります。

鐵に次いで石炭は全土の三割八分を占め、事變前迄は土法採掘等舊式なものでしたが、其後新式のものが増加し、四川の出炭量は八十八萬トンで事變前より二十五萬トンの増加となつてゐます。其他雲南の近代的設備の外は殆ど小規模のものです。

要するに重慶必死の努力は奥地經濟の態様を驚く程改變した事は事實ですが、何分交通不便

な奥地の事として完全な調査、開拓は今後の日本に託された任務でせう。尙支那經濟の資料は從來
鬼角信用出来ないものが多く特に奥地經濟の真相は今後の調査研究に俟つ外はありますまい。

結びの言葉

最初私は茲に大東亞建設今後に處する覺悟といふ題目に依つて、輝々たる武力戰に醉ふ事な
くよく經濟建設百年の大計を以て、東洋人相携えて協力よく理想的な經濟圏を打ち建てるべく
今日の不自由を忍めるだけ忍むべき事を主張し、延いて十年後二十年後の經濟推則を申し述べ
てこの競争場裡に完全な勝利者たるべき道標しるべを解説しようと思つて存じましたが、これは非常に冒険
な計畫でありまして、その所論が當つてゐるにしろそうでないにしろ皆様を誤解させる事を恐
れたのであります。

又本書の全頁を熟讀されたならばつとこの最後の「今後への善處」は各自の胸の内に浮び上
つて來る事と存じましたので、次の機會に譲り茲には申し述べる事を遠慮致します。

輝く目標を逞しく前進する——唯之れだけを付け加へて置ませう。——五月五日稿了——

昭和十七年六月五日 印刷
昭和十七年六月十五日 發行

認 承 協 文 出
ア 10043



大東亞建設の基礎知識

定價金 壹圓貳拾錢

著 者 宮 下 龜 雄

發行者 東京市麹町區九段一ノ一 宮 下 昌 也

印刷所 東京市神田區錦町二ノ五 小 端 印刷 所

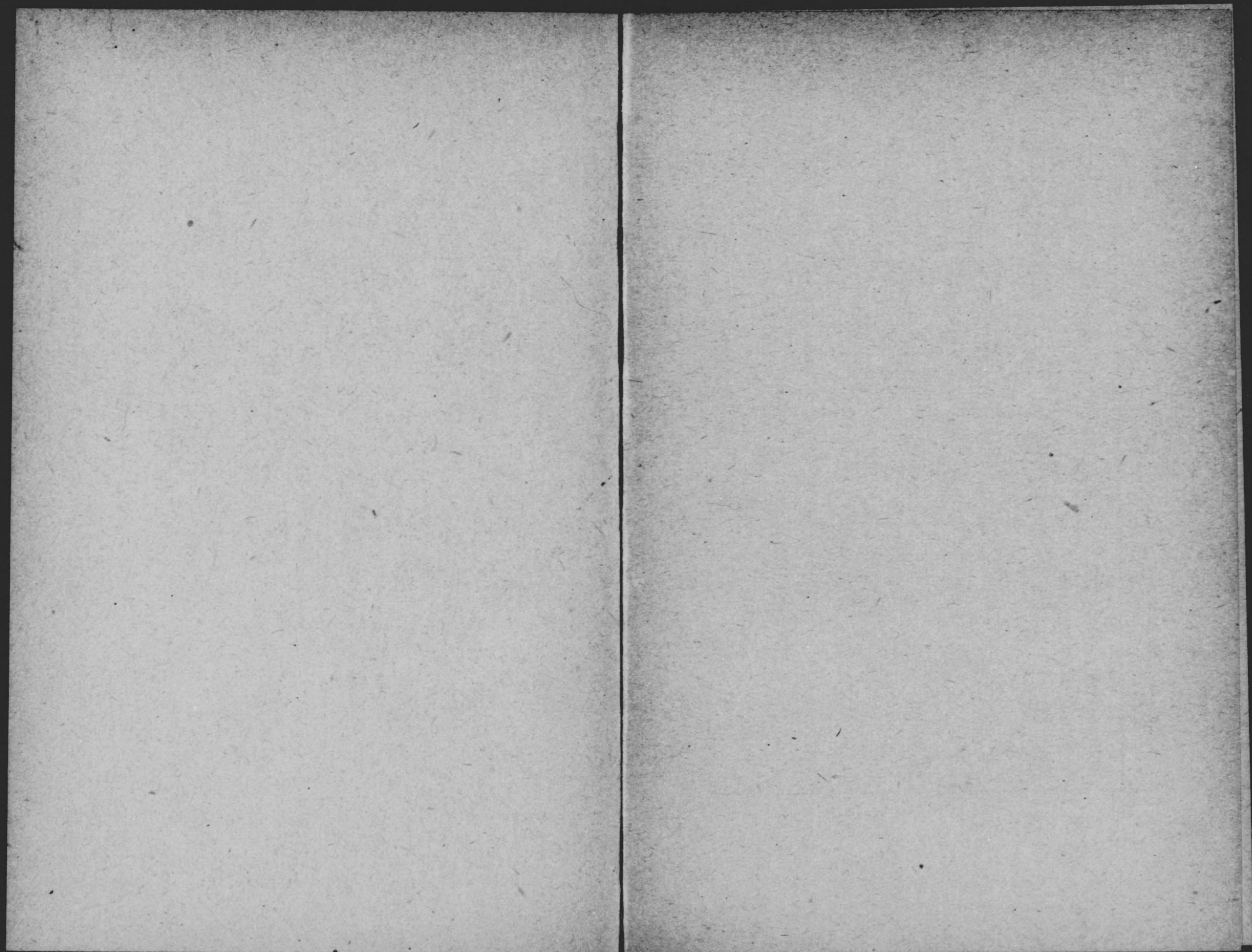
發行所 東京市麹町區一一一 松 堂

九段一ノ一 電話 東京 三四〇九番
支店 東京 三三〇九番

配給所

東京市神田區
淡路町二ノ九

日本出版配給株式會社



945
54



¥ 1.20